

【重点目標】自ら考え、学び、ともに成長する、いきいきとした子ども



雨紛っ子

学校だより
令和8年度
第4号
令和8年7月23日

今日も来てよかったと感じてもらえる学校に

校長 佐藤 純 一

元気の源。そう聞いて、皆さんがすぐ思い浮かべるものは何でしょう。家族の存在、推し活の充実感、夏ならスイカやかき氷、ソフトクリームという人もいるかもしれません。

では、毎日学校に通う子どもたちにとって、学校での元気の源とは何でしょう。反対に「元気ではない状態」を考えてみると、①いじめられる、②命令ばかりされる、③勉強が分からない、④我慢が辛い嫌なことがある、⑤自分を理解してもらえない、などが挙げられます。どれにも共通するのは、「選べない」「決められない」「安心でない」という点です。

人が真に元気でいられるのは、自分に関わることを自分で選び、決め、安心して過ごせることです。自分の行動が誰かに完全に支配されていると感じると、心は急速に疲れてしまいます。大人も子どもも、元気に過ごすためには「選択」「決定」「安心」の三つが欠かせません。

さて、4月の始業式で、私は子どもたちに「自分をカエル、皆でカエル、未来をカエル」という合言葉を伝えました。蛙の“カエル”にかけたダジャレ言葉ですが、「昨日よりちょっとだけカエル」「みんなで力を合わせてカエル」など、昨日よりあと一歩だけ前に進んでみないかい？そんなメッセージを込めて話をしました。

もちろん、この一学期がいつも順調だったわけではありません。授業で手を挙げようとしてやめてしまう日もあれば、友達と何だかうまく話がかみ合わず、気持ちが沈むこともあったことでしょう。それでも、そんな後に見られた「少しだけ変わってみよう」と自分で気持ちを立て直す姿。誰かに言われたからではなく、自分で「やってみよう」と思えた瞬間が、一学期の中で少しずつ増えてきた、そう感じているところです。

友達との関わりでも、周りと一緒に進もうとする気持ちが、学校の中にゆっくりと広がっていったように感じます。こうした関係性は、子どもたちにとって大きな安心につながります。安心があるからこそ、次の一歩を踏み出す勇気が生まれます。

「自分をカエル」という言葉は、大きな変化を求めるものではありません。昨日より少しだけ前向きに、少しだけ丁寧に、少しだけ挑戦してみる。その積み重ねが、子どもたちの未来を確かに形づくっていくと、私は信じています。

7人の子どもたちにとって雨紛小学校は、「今日も来てよかった」と感じてもらえる場所であってほしい。私達、教職員全員の願いです。2学期も、子どもたちが自分の選択を大切に、決定に責任をもち、安心して過ごすことができるように、教職員全員で努力を重ねていきたいと思います。



修学旅行2026

今年の神居東小との合同修学旅行。6月17日、18日の1泊2日で札幌・小樽に行ってきました。行きのバスの中こそ、少し緊張していましたが、5年間の交流で関係性を深めていた〇〇ちゃんは、いつの間にか、すっかりなじんでいました。「友達とたくさん話したことが一番の思い出」だそうです！



いじめ撲滅標語

「ぜったいに なかまはずれは したらだめ」	〇〇 〇〇
「いじめだめ 人がいやがる ことだから 」	〇〇 〇〇
「いじめなし いいこといっぱい みんなえがお」	〇〇 〇〇
「いじめはね ぜったいしない いい気持ち」	〇〇 〇〇
「見つけよう みんながもってる いいところ」	〇〇 〇〇
「いじめはね 人を一生 傷つける」	〇〇 〇〇
「いじめ見て しらないふりも いじめだよ」	〇〇 〇〇



児童会主体の「いじめ撲滅標語」の取組を行いました。これからも『「ありがとう」「ごめんね」「いやだよ」「いいよ」など自分の気持ちをすぐ伝えます。』『イヤだと言われたらすぐ止めます。』のなかよしあたりまえ4か条も一緒に心がけて、学校生活を過ごしましょう。



「あなたもわたしも
だいせつ」

～同意とバウンダリー～

第2回参観日に「生」教育アドバイザー山田亜弥講師による、包括的性教育の授業（講演）を行いました。明るくパワフルな講師の進行に、児童も保護者も教員も巻き込まれながら、「1人1人のからだは、自分だけの大切なもの」「自分の心と体にはバウンダリー（境界）があり、たとえ誰であっても同意なくこえてはいけないこと」など生きていく上で大切なことを学びました。



一学校閉庁日のお知らせ

8月10日（月）～14日（金）は「学校閉庁日」となります。お子さまの入院・事故・その他緊急の事案があった場合は次の連絡先にお願いします。

■ Tel 25-9116
(教育委員会 教職員課)

■ 緊急時 mail
kinkyu@ubun.els.asahikawa-hkd.ed.jp